

KQC 役職再編成の提案

2022 年 7 月 30 日

山崎 龍一

1.提案

来年度以降の、KQC 役職の再編成

2.趣旨

現行の役職編成の問題点として、①仕事量が明らかに特定の役職(内務・指導)に偏りすぎていること、②役職によってはほとんど仕事がない(臨時練習担当)、あるいは人員が余っていること(連合)、③役職がそれぞれで独立しており、なんらかの事情で特定の役職の仕事が不可能な際のフォローができないこと(特に内務・財務)、それにより役員のサークル参加が希薄化してしまうことがあること、④役職間の連携が取れず、サークルの運営に支障をきたしてしまったこと、がある。

いずれの状況も、業務が特定の人員に集中してしまい、余剰人員でカバーができていないことに対する問題意識から見てとれるものである。これらの 4 点を解消すべく、来年度以降の KQC 役職の編成について、以下(3.具体案)のような役職の再編成を提案する。

3.具体案

3-1.内務

内務での役割分担の負担を軽減するとともに、情報共有を明確なものにする。web 担当の業務に広報(Instagram,Facebook)を追加することとする。

内務の業務は多岐にわたるため、その全てを一人で(ないしは 3 人で)管理することは困難である。そのため役員全員でフォローできる体制を整え(3-8 参照)、誰かが業務を進められなくなっても他の役員で業務を進めることができるようにする。

web 担当の業務に広報を追加するのは、今年度の新歓まで誰がどのように SNS を運営するのが確定していなかったことが大きな理由である。新歓 SNS の運営を誰にするか決めていなかったために意思疎通が取れず、アカウントが複数乱立するなど、状況が複雑化してしまった。

もともと新歓 SNS を管理するのは総務であったが、新歓期は総務の業務が多岐にわたり多忙になる。そこで、SNS の投稿は内務の web 担当が、新歓 LINE や SNS の DM での新入生対応に関しては総務がおこなうこととする。

3-2.指導

指導という役職をなくし、経験者全体で初心者を指導することとする。

まず、指導の主な役割として、①普段の初心者の練習の進行、②弓具購入会の運営、の 2 点がある。現状、①について、役職としての指導が二人のみの状況で指導をおこなうことは、指導(役

職)の人数が初心者的人数に対して少なくなるため、そもそも難しくなっている。②に関してはつつがなく運営されている。これに関しては必要に応じて、なるべく多くの経験者が付き添うようにすれば良い。

①に関していえば、さまざまな制約のなか、二人で指導をおこなうことは物理的に不可能であり、また(指導ではない)経験者がすすんで初心者の指導をする文化が薄い今の状況では、大学のサークル内部の交流が希薄になることは想像に難くない。KQCが大学のサークルであるということを踏まえれば、経験者全員が指導をおこなう方が、経験者と初心者の交流も活発になるし、初心者もより早くの前で弓を引けるようになり、サークル全体にとっての利益になるだろう。

ある程度の弓道経験者であれば、どのような段階を踏んで練習を進めれば良いか、またどのような行為がどうして危険になるのか、などの指導は曲がりなりにもできるはずである。そのことを考えれば、無理に指導という役職にサークル員を縛りつけて指導を一任するよりも、経験者全体で初心者を支える方が、精神的にも肉体的にも楽である。初心者も、指導する人が多い方が、知り合いも増えてサークルに足を運びやすくなる。指導の方針がバラバラになると予想されるが、これに関しては代表や日吉代表などがKQCのLINEグループで指導の流れを共有すれば、大きな問題にはならないだろう。

②の弓具購入会の運営に関しては、代表や日吉代表など、サークルのコミット率が高い経験者が中心となって運営することとする。

練習の方針は、主に経験者の総代表・副代表・日吉代表・内務を中心に決めることとし、決定した内容をKQCの全体グループで共有するようにする。

3-3.臨担

臨時練習担当という役職をなくし、その業務を執行役員で分担することとする。

臨時練習担当の役割として、①内務・日吉代表(・元内務・総代表)が練習に参加できない時の練習を運営すること、②定例射会・二期会・納涼船の開催、③遠的練習の開催、の3点がある。①については、挙げた全ての役職の人が誰一人練習に参加できないという状況はまずなく、そもそも内務が練習を運営できる日程で練習が組まれているため、臨時に練習を運営するためだけの役職は必要ないと考えられる。これは、役職を増やすだけ増やして業務が煩雑化するならば、それは本末転倒だという考えに基づく。

②に関しては、よりサークルへのコミット率が高い者(総代表や日吉代表など)が運営すれば良いと考えられる。3-7でも表記があるが、代表職は特定の時期のみ多忙で、それ以外は特定の業務に携わっていることがあまりない。また、代表職はその性質から、コミット率が高く、多くのサークル員と接する機会が多い。そのため、定例射会をはじめとするある程度の人数が必要なイベントの開催が容易である。③に関しても同様な観点から業務を割り振ればよい。

3-4.連合

現行のまま、作業の煩雑化防止のため、連合役員を2人から1人にする。役員全員によるフォローアップ体制が万全なことは前提の上での話である。

3-5.財務・会計監査

現行のまま特に変更はなし。

3-6.総務・合宿担当

現行のまま特に変更はなし。

3-7.総代表・副代表・日吉代表・主務

全体の統括に加え、各役職の補佐、イベントの開催を正式に業務に組み込むこととする。

現状として、代表系の役職はサークルの存続に直接関わる業務(公認申請など)以外は担当しないことがほとんどであり、特定の時期以外は特定の業務がないことが多い。有り体と言えば役職にしては暇だということであり、この暇に立場上他の役職の業務を受け持つべきである。

代表職が全体の業務を把握し、必要に応じてフォローできるのはもちろんであるが、特にイベントの運営は、コロナ禍でほとんど失われてしまった KQC の活動を再び取り戻すためにも必要事項である。他の役職が自身の業務に追われている状況を鑑みると、代表職がイベントの運営を行うことが適切であろう。ここで言及するイベントというのは、毎年の公式な恒例行事であり担当役職が明確である合宿や追いコンなどではなく、主に年度によっては開催されないラフなイベントのことである。サークル全体を活気づけることを主な目的とする。

3-8.その他

役員の業務連絡用ライングループ(または Slack)を作成し、逐一業務連絡をおこなって、フォローアップ体制を確実なものとする。たとえば毎月の道場予約申請が完了した際に、その旨をきちんと報告するようにする。